

令和6年度 平井保育園事業報告

1. 概要

① 運宮方針

- 東部地区には大型病院や行政施設、また、新たに移転してきた企業等も多く、保育ニーズが高まっているため、入園希望が増加傾向にありました。想定していたよりも0歳児の申し込みが多かったため、1歳児の定員は増やさなくとも、以前の水準を維持した運営ができました。
- 令和6年度の採用はいまだ紹介会社に頼らざるを得ない状況であり、姉妹園からの異動で対応しました。養成校へは就職フェア等を通して働きかけたことで、学生の園見学の件数も増加し、次年度の新卒の採用にもつながりました。
- 公休日数の増加や、有給消化率の向上に取り組みました。ICT化が定着してきており、効率よく作業を行える業務も増えてきましたが、職員によっての力量の差は見られ、それぞれが計画的に業務を遂行していくことには課題が残ります。
- 経験の浅い職員や、非常勤職員が多いものの、日々の会議や職員会議などを通じて、一日の流れやチェックリストを周知することができました。そのことにより、非常勤職員も共通意識をもって取り組むことができてきました。
- 子育て支援拠点事業では、今年度より園庭開放の回数を増やしたことで、園を知ってもらう機会も増え、入園希望も増加してきています。また、SNSを利用した広報活動も定着してきており、近隣の親子だけでなく、遠方からの利用者も増えています。
- 12月に第三者評価を受審しました。勉強会を通して保育内容の共通理解を深めることができました。保育園の運営等に関しては、職員によって理解に差があるため、園運営に関する理解を深めていきました。

②定 員 1 2 0 名 園児数 1 4 1 名

③事業日数 294日 (ほか休日保育31日)

④開園時間 平日 7：00～20：00 休日 8：00～18：00
土曜日 7：00～20：00

⑤保育時間

早朝保育	7 : 0 0 ~ 8 : 3 0
通常保育	8 : 3 0 ~ 1 8 : 0 0 【標準時間認定】
	8 : 3 0 ~ 1 6 : 3 0 【短時間認定】
延長保育	1 8 : 0 0 ~ 2 0 : 0 0

⑥職員数 園長 1名、主任保育士 1名、副主任保育士 1名、看護師パート 1名
保育士 17名（うちパート保育士7名）
子育て支援センター担当職員 3名（うちパート保育士2名）

延長休日保育担当保育士	2名（うちパート保育士1名）
調理員7名（内パート職員5名）	パート用務員 2名
嘱託医（松山市の指定による）	小児科医 1名・歯科医 1名

2. 保育運営

①保育理念

- 子どもは子ども同士認め合い、助け合い、励まし合い、学び合う子ども社会の中で成長することが望ましいと考えます。
- 私たちは、子どもの個性・人格を尊重し、自立を促し、日々の生活の中で家族とともにその成長・発達の援助を行います。

②保育方針

- 社会福祉法人白鳩会保育メソッド・一日の保育の流れを中心に、子どもたちが主体的に生き生きと生活・活動できる環境を整え、自己を十分発揮し人として『生きる力』を育む。
- 在園児および地域の子育て支援を行う。
- 愛着関係を確立させ、子どもとの継続的な信頼関係を築く。

③保育目標

乳児期の愛着関係を基盤とし、認知能力（記憶、計算、判断、決定、言語理解など）と非認知能力（意欲、協調性、粘り強さ、忍耐力、計画性、思いやり、自己肯定感）を育む。

④クラス体制

0歳児	10名	保育士3名	（うち保育士パート2名）
1歳児	24名	保育士4名	（うち保育士パート2名）
2歳児	25名	保育士4名	（うち保育士パート1名）
3歳児	27名	保育士2名	（うち保育士パート1名）
4歳児	27名	保育士2名	
5歳児	28名	保育士1名	
合計園児数	141名	保育士16名	

主任保育士 1名

副主任保育士 1名

フリー保育士 1名

延長休日保育担当保育士 2名（うちパート保育士1名）

⑤保育内容

- チェックリストの見直しを行ったことで、保育の手順は一定程度標準化され、振り返りの基準

として活用することができました。しかしながら、子どもへのかかわりについては、保育士によって差異がみられるため、丁寧な保育の実践が課題となります。

- 子どもの自立に向けて必要以上に言葉がけを行わないことを伝えてはいるものの、職員によっては先回りした指示が見受けられました。その都度現場において子どもの姿を見守るよう助言していきました。
- リトミックは、保育士も子どもと一緒に身体を動かしながら様々な身体の使い方を体験できるように取り組みました。日々の取り組みの中で音を聞くことやリズムに合わせることができるようになってきています。
- 全国人権擁護委員連合会のリーフレット「種をまこう」や人権に関する絵本を使って人権について考えていきました。ソーシャルスキルトレーニング絵カードを使用することで、相手の気持ちや場面に応じた対応を学びました。
- 野菜の栽培や、田んぼでの苗植えや収穫を体験しました。自分で育てることで食への興味関心も広がっており、感謝する気持ちにもつながりました。
- SDG s のプログラムを通して環境を大切にすることを学び、子どもたちが自分たちのできることは何があるかを意識し生活する姿が見られました。様々な国との交流を通じて、他国の国の文化と自国の文化の違いに気付き、興味を深めることができました。
- 講師による造形あそびを年3回実施しました。様々な活動を通して、自ら考え工夫し想像力を膨らませながら楽しむことができました。また、共同制作ではお互いの意見を尊重しながら製作に取り組む姿が見られました。

⑥家庭との連携

- 家庭訪問（新入園児のみ）、個別懇談・就学前個別懇談（年1回）、クラス懇談（年2回）、参観日・保育を楽しむ日（年1回）を実施しました。
- 園だよりやクラスだよりなどを配信しました。アプリ上で開封確認ができるなど効率よく保護者周知ができるようになりました。
- 行事のアンケートは紙ベースからウェブ上に変更したことで、回答率もあがり、より多くの意見をいただくことができました。また、集計作業の効率化にもつながっています。
- 配慮を要する子どもは、日々の送迎や懇談で保護者とこまめに連携を図りました。保健所、発達支援事業所、療育センター、大学病院と連携を図りながら子どもの育ちを支えるようにしました。
- 新入園児を対象に入園前にプレ保育を実施しました。入園に対する不安が強い保護者が年々増えている中、複数回園に足を運んでいただくことで不安の解消にもつながっています。
- 転園や卒園児とその保護者には、園長、主任が相談窓口となり対応しています。卒園児との交流会は年4回実施しました。

⑦人材育成

- 新規採用職員にはリーダー職員が付き、一日の保育の流れやチェックリストを基に保育の確認を行いました。年度の途中に再度チェックリストを確認し、保育の標準化を図る取り組みを行いました。
- 研修計画に基づき専門知識を深められるようキャリアアップ研修を受講しました。

- リーダーに必要な役割やスキルを学ぶための外部研修に参加し、自分の役割を理解し業務に臨めるよう学びました。
- 12月に第三者評価を受審しました。勉強会を月一回設け保育内容の共通理解を図るように取り組みました。園運営については、職員によって理解度に差があったため、丁寧に説明し理解を深めていきました。
- 園外研修等に、それぞれのスキルアップに向けた研修参加を行いました。
- 園内研修（石井方式漢字教育、アレルギー対応、救急救命、SIDS、感染症対応、嘔吐処理、不審者訓練、体育指導、人権擁護チェックリストなど）を実施しました。

⑧地域の実態に対応した事業

●地域子育て支援拠点事業

- ・SNSでの広報活動が広まり、遠方からの利用者也増え、昨年度より46名登録者数が増えました。相談件数は32件あり、言葉の発達や育児不安などが寄せられています。園内の専門の職員が対応し、相談内容によっては専門機関を紹介しています。
- ・園庭開放、給食試食会、プール開放などを通して保育園を知ってもらう機会を設けました。

●地域とのかかわり

- ・中学生の職場体験を5名受け入れました。
- ・近隣の高齢者施設とお互いの行事に参加し交流を深めることができました。
- ・地域の文化祭、駅伝大会、春祭りなど地域の行事に積極的に参加しました。

●小学校との連携・接続について

- ・年2回の幼保小連絡協議会で情報交換及び引き継ぎを行い、連携を図りました。近隣の小学校と架け橋プログラムの作成をしました。

⑪休日保育

- 年間31日開所し、休日保育の年間延べ利用人数は87名でした。
園内利用者7名 園外利用者4名

⑫その他

- | | |
|-------------|------------|
| ・幼児用雲梯 購入 | 462,000円 |
| ・総合遊具 購入 | 5,357,000円 |
| ・開閉式テント新設工事 | 726,000円 |
| ・園庭人工芝施工 | 968,000円 |